

創造から新天新地へ—24章でたどる神の救済史

24章 「新天新地」

黙示録21章

はじめに

(1) これまでの流れ(総まとめ)

- ①創造 — 神は完全な世界を創造された(創1~2章)。
- ②墮落 — 罪によって死と呪いが入った(創3章)。
- ③契約の歴史 — 神は回復の計画を段階的に啓示された。
- ④イスラエルの選び — メシアをもたらず民
- ⑤メシア到来 — 約束の成就
- ⑥十字架と復活 — 救済の完成をもたらず基礎
- ⑦教会時代 — 福音の拡大
- ⑧イスラエルの回復 — 神の契約の成就(ロマ11章)
- ⑨患難期 — 裁きと精錬
- ⑩千年王国 — メシア的王国の実現
- ⑪最後の裁き — 永遠の分離

(2) 黙示録21章の位置づけ

- ①救済史の最終段階(終末の完成)
- ②「回復」ではなく「新創造」である。
- ③創世記1~3章との完全な対比

命題：神の救済計画は新天新地において完全に成就する。

この章を3区分して完成した内容を確認する。

I. 新天新地の創造(1節)

Rev 21:1 また私は、新しい天と新しい地を見た。以前の天と以前の地は過ぎ去り、もはや海もない。

1. 第一の天と地の消滅

- (1) 罪によって汚染された被造世界の終焉
- (2) もはや海もない(混沌・分離の象徴の消滅)。
 - ①今の地球は、その大半が海で覆われているが、その海がなくなる。
 - ②千年王国には海が存在する。
 - ③新天新地では、「いのちの水の川」(黙22:1)が用意される。

2. 新創造の神学

- (1) 単なる修復ではなく「全く新しい創造」
- (2) 創世記1章の完全な回復と超越
 - ①「創造のやり直し」ではなく「完成形」である。

II. 新しいエルサレムの降下(2~8節)

1. 都は「花嫁」として描かれる(2節)

Rev 21:2 私はまた、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために飾られた花嫁のように整えられて、神のみもとから、天から降って来るのを見た。

- (1) 新しいエルサレムはすでに天にある。
 - ①教会=子羊の花嫁
 - ②天のエルサレムは、人格的共同体として描写される。

2. 神の幕屋が人とともにある(3~4節)

Rev 21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。／「見よ、神の幕屋が人々とともにある。／神は人々とともに住み、人々は神の民となる。／神ご自身が彼らの神として、ともにおられる。

Rev 21:4 神は彼らの目から／涙をことごとくぬぐい取ってくださる。／もはや死はなく、／悲しみも、叫び声も、苦しみもない。／以前のものが過ぎ去ったからである。」

- (1) インマヌエルの最終的成就
 - ①神の臨在の完全回復

- (2) 呪いの完全な除去
 - ①死・悲しみ・叫び・苦しみの消滅
 - ②創世記3章の逆転

3. 勝利者と不信者の対比(7~8節)

Rev 21:7 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。

Rev 21:8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」

- (1) 救われた者の相続
- (2) 火の池という永遠の裁き
 - ①第二の死

III. 新エルサレムの詳細(9~27節)

1. 子羊の花嫁としての都 (9~10節)

Rev 21:9 また、最後の七つの災害で満ちた、あの七つの鉢を持っていた七人の御使いの一人がやって来て、私に語りかけた。「ここに来なさい。あなたに子羊の妻である花嫁を見せましょう。」

Rev 21:10 そして、御使いは御霊によって私を大きな高い山に連れて行き、聖なる都エルサレムが神のみもとから、天から降って来るのを見せた。

(1) 教会の栄光の最終形態

- ①「子羊の妻である花嫁」とは、新エルサレムのことである。
- ②その意味は、この都が花嫁の住む場所になるということである。

(2) 新エルサレムは、天から下る都である。

2. 神の栄光に満ちた都 (11節)

Rev 21:11 都には神の栄光があった。その輝きは最高の宝石に似ていて、透き通った碧玉のようであった。

- (1) シャカイナ・グローリーの充満
- (2) 太陽も不要な光

3. イスラエルと教会の統合的完成 (12~14節)

- (1) 12の門=イスラエル12部族
- (2) 12の土台=使徒たち
- (3) 区別は保たれつつ統合される。

4. 完全性を示す構造 (15~17節)

(1) 立方体 (至聖所の拡大)

- ①1辺の長さは、1万2,000スタディオンの(2,200キロメートル以上)。
- ②象徴的な数字と解釈しなければならない理由は、何もない。
- ③これは、人類の歴史上最大の規模の都市である。
- ④あらゆる時代の聖徒たちが住むのに十分なスペースが確保できる。
- ⑤ソロモンの神殿の至聖所は、立方体であった(1列6:20)。
- ⑥この都は、永遠の至聖所としての役割を果たす。

5. 都の美しさ (18~21節)

- (1) 純金・宝石
- (2) 神の栄光の視覚化

6. 神と子羊が神殿である (22節)。

- (1) もはや仲介構造は不要
- (2) 直接的交わりの完成

7. 永遠の光と支配 (23~27節)

- (1) 神ご自身が光
- (2) 諸国民の歩み
 - ①諸国の民は、都の光によって歩む。
- (3) いのちの書に記された者のみが入る。

今日の信者への適用

1. 創世記との対比

- (1) 天と地の創造：新天新地
- (2) エデンの園：新エルサレム
- (3) 命の木：命の木の回復 (22章)
- (4) 神との断絶：神との完全な交わり
- (5) 呪い：呪いの消滅
- (6) 死の支配：死の消滅

2. 私たちの希望は「この地上」ではない。

- (1) 終着点は新天新地。
- (2) 地上的成功ではなく永遠的視点
- (3) 「花嫁」として整えられる生き方

3. 苦しみの意味

- (1) 今の苦しみは一時的。
- (2) やがて完全な回復が来る。

4. 伝道の緊急性

- (1) いのちの書に名があるかが決定的。
- (2) 今が恵みの時。

5. 創世記1章から黙示録21章まで、一本の線につながる。

- (1) 聖書が書かれた目的は「神の栄光」である。
- (2) 人類の救いは、その一部である。
- (3) 新天新地は「永遠の礼拝の場」である。
- (4) 今の礼拝はその前味である。